

Title	韓・日両言語の受身構文
Author(s)	李, 吉遠
Citation	阪大日本語研究. 3 P.59-P.72
Issue Date	1991-03
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/5588
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

韓・日両言語の受身構文

A Syntactic Study of Passive Voice in Korean and Japanese

李 吉 遠

Yi Gil-won

キーワード：受身形 受身構文 形態論的な対立 対照研究 動作主体と動作客体

1. はじめに

韓国語と日本語の対照研究の一つとして両言語の受身に関する問題がしばしば取り上げられている。

日本語の受身は述語の動詞が「～れる・られる」という接尾辞を取り、その動詞がさしめしている動き（動作）をめぐる、その動作の主体とその動作の客体との関係を問題にする。韓国語の受身に関しても日本語の受身の規定とそう変わらないが、述語の動詞の現われ方が日本語と比べると極めて複雑な様相を呈している。

このような受身に関して、ここでは、特に両言語の受身構文を実際の作品用例から形態的・統語的・意味的な面を分析しながら考察していく。

2. VOICE とは

日本語の文は一つの動作において、その動作を行なうもの＝主体を主語として文を作ると、はたらきかけ＝能動態の文になり、その動作を受けるもの＝客体を主語として文を作ると、うけみ＝受動態の文となる。このような対立を VOICE（態・たちば）といい、日本語では「～する」と「～される」という動詞の形態論的な対立によって表現される。

日本語の VOICE に関する定義は韓国語においても同様に考えられる。

しかし日本語の動詞の形態論的な対立が「～する」と「～される」で表現されるのに対して、韓国語の動詞には基本的に VOICE 的な意味での形態論的な対立の形が存在しない。これまで韓国語の VOICE についての見解の中では、接尾辞 *-i* *-hi* *-ri* *-gi* などのついた形（以下＜*-i*形＞とよぶ）が「～hada」との対立で考えられているが、この＜*-i*形＞は基本的に受動の意味だけを表すといいきることができない。あるときは単に自動詞的な意味で、またあるときには使役的な意味、あるいは他動詞的な意味で用いられるからである。

日本語の動詞の受身形（いわゆる、一れる、一られる形）はある程度生産的であるといわれるが、韓国語の動詞の＜*-i*形＞は生産的ではなく、受身を必要とする主要な動詞（他動詞）に自由につくというものではない。＜*-i*形＞の他に＜～a/ǒjida＞と＜～doeda＞＜～batta＞＜～danghada＞などという接尾辞があって、これを補っている。

しかし、このような韓国語にも受動構造の文は存在する。

Bga Aege — ＜*-i*形＞と他の形

それとの対立において能動構造も存在する。

Aga Brúl — da

3. 両言語の受身形

両言語の受身形は次のような形として現われる。

i 日本語動詞の受身形

- (1) 語幹が子音で終わる動詞（いわゆる弱変化動詞＜＝五段活用動詞＞）
語幹＋are－(ru) 例) sin-u→sin-are-ru（死ぬ）
※ i-u→i-ware-ru（言う）
- (2) 語幹が母音で終わる動詞（いわゆる強変化動詞＜＝上一段・下一段活用動詞＞）
語幹＋rare－(ru) 例) sodate-ru→sodate-rare-ru（育てる）
- (3) 不規則動詞（いわゆる特殊動詞＜＝サ行変格・カ行変格活用動詞＞）
例) suru→sare-ru（する）

kuru→korare-ru (来る)

※漢字一字の語幹をもつ動詞

bas-suru→bas-serare-ru (罰する)

sin-zuru→sin-zerare-ru (信ずる)

ii 韓国語動詞の受身形

(1) 接尾辞<-i 形>等がついてつくられたもの

³⁾
図1

接尾辞	語幹尾の音声	用	例
-i	母音	a	ssaida (包まれる, 取り囲まれる)
		ae	maeida (結ばれる, 繋がる)
		e	tteida (踏み倒される)
		o	ssoida (刺される)
		u	ssūida (書かれる, 用いられる)
	子音	o	noida (置かれる)
		p'	dǒp'ida (覆われる, かぶせられる)
		kk	mukkida (縛られる)
-hi	子音	k	mǒkida (食べられる, 食われる, 飲まれる)
		t	datch'ida (閉められる, 閉じられる)
		t	kkotch'ida (差し込まれる, 嵌められる)
		l	ǒlkida (縛られる, くくられる)
		l	palp'ida (踏まれる)
		p'	jabp'ida (握られる, 捕らえられる, 捜される)
-ri	子音	l	kkǔllida (引かれる, 引っ張られる, 引きずられる)
		l	ttullida (開けられる)
		ru→ri	kallida (分けられる)
		m	kamgida (巻かれる, 閉ざされる)
		n	angida (抱かれる)
		n	kkūnkida (切られる)

-gi	子音	t	ttütkkida (食われる, かまれる, 取られる)
		t	matkkida (任される, 押し付けられる)
		t	paeatkkida (奪われる, 奪い取られる)
		t	tchotkkida (追われる, 追いつかれる)

(2) 動詞の連用形+jida (-a/ō jida 形)

例) mandŭlda→mandŭrōjida (作る)

cjuda →cjuōjida (与える)

(3) 漢語動詞における<-hada>との置き換えによる形態

4)
図2

	-hada	-doeda	-batta	-danghada
建設, 開放, 使用, 区分, 収録	O	O	X	X
命令, 尊敬, 同情, 授与, 紹介	O	O	O	X
破壊, 暴露, 根絶, 解散, 逮捕	O	O	X	O
侮辱, 脅迫, 攻撃, 侵略, 注意	O	X	O	O
信頼	O	X	O	X
背反	O	X	X	O

日本語動詞の受身形が自動詞と他動詞から規則的, かつ生産的に作られるのに対して, 韓国語動詞の受身形は他動詞のみから作られるし, 生産的でもなく複雑多様に現われることが図から説明できたと思われる。ここでは具体的な両言語の受身形に関する説明は省略して受身構文の方に進む。ただ本稿では受身構文に関して, 意味的・形態的・構文的なレベルの諸規定のすべてを満足させるものを受身構文と呼ぶことにする。

4. 受身文における動作客体・動作主体・動作

i 動作客体について

前にも述べたように VOICE とは出来事を構成する動作主体と動作客体のうち, どれを主語として表わす文をつくるかにかかわるカテゴリーである。

そこで動作客体（動作の対象）を主語として表現すると受身文がつけられる。

今回、両言語の受身文の主語（動作客体）にどのようなものが現われるかを用例から調べてみると次のような数値になった。

	韓国語		日本語	
	例数	全体に占める%	例数	全体に占める%
人	74	46.5	113	42.2
物	31	19.5	55	20.5
事	40	25.2	67	25.0
場所	2	1.2	10	3.7
その他	12	7.6	23	8.6
計	159	100(%)	268	100(%)

両言語共に受身文の主語には元來有情物（人）がくるのが普通と思われるが、上の調査結果は文学作品の地の文からのせい、普通の会話体の文で使われる用例とは異なって、主語の半分以上が非情物であった。

1) Somune gŭnŭn sŏulsŏ hangil undongŭl kŭge bŏridaga jimyŏngsubaedoae pihae naeryŏ wattanŭn gŏyŏtta. <高麗>

1') 噂によると、彼は、ソウルで大がかりな抗日独立運動をくり広げた揚句、指名手配されて逃げだしてきたということだった。

2) 「Yetnalŷe i aebiga jekkaji mukkyŏ ollawatssŏtta」 <脈>

2') 「昔この父がしばられてここまで上って来た。」

3) 白い足袋は、傍にきちんと揃えられてあるビニール草履から、脱いだばかりのようにきれいだった。 <点と線>

3') hayan bŏsŏnŭn yŏp'e gajirŏnhi noyŏitnŭn binil joorirul gumbang bŏsŭn gŏtch'ŏrŏm kkaekkŭthaetta.

4) mach'i gonghyuirŭl iyonghaesŏ gisŭbjŏgŭro insangdoenŭn mulga Ch'ŏrŏm hambangnuni ūnmilhi naerigo itsŏtdŏn gosida.

<kkum>

4') まるで公休日を利用して奇襲するように引き上げられる物価といっ

た恰好で、牡丹雪は音もなく降りだしていたのである。

5) jömuröganün hürin hanúl'boda nune dwissain ttangi ohiryö
hwida. <単獨>

5') 陽が落ちたくもり空より、雪に覆われた大地のほうがむしろ白く見えた。

用例1)・1')・2)・2')は受身文の主語が有情物(人)で、3)・3') (物) 4)・4') (事) 5)・5') (場所) は非情物で表現されている。勿論、受身文の主語が省略される場合もある(ただし、受身文の動作主体<補語>の省略と比べると非常にすくない)が、大体文脈から受身文の主語がわかっているし、省略されても別に問題にならない例が多かった。

ii 動作主体について

i に述べたように、実際の文章を見てみると、受身文で最初に想定した動作と動作主体という要素のうち、次にあげる例のように動作主体を欠いている例が非常に多い。

6) 私は其所まで読んで、初めてこの長いものが何のために書かれたのか、その理由を明らかに知ることが出来た。 <こころ>

6') nanün gögikkaji ilgo chöümüro i gingüri muöttaemune ssüýö jyötnünga gü iyurül hwaksilhi algöt gatatta.

7) pogoga itja jüksi du saramüi suinmoksuga pagyöndoeöwatta. <kyöulbam>

7') 報告があるや直ちに二人の囚人木手が派遣されてきた。

8) それはきわめて秘密が保たれたから外部にもれませんでした。

<点と線>

8') kugöšün guki bimiri jikyöjyötki ttaemune oebuenün saeöna gaji anattön gösimnida.

6)・6')・7)・7')・8)・8') の用例のように、動作主体が文に現われない場合が両言語共に全体の用例の70%以上にのぼっている。

動作主体の格と動作(動詞)との関係は4で述べることにして、ここでは今回の調査で得た、各動作主体の格についてその現われる形式を明示す

るのにとどめる。

日本語の用例(68)

①～に(42) ②～で(15) ③～から(10) ④～によって(1)

韓国語の用例(35)

①～e (ege. hante)(24) ②～ro(3) ③～egesō (robotō·hantesō)(6) ④～eūihae(～eōihaesō)(2)

iii 動作(動詞)について

日本語の受身の場合、受身になるのかならないのか、またどのような受身になるのかは、その動詞がどういった語彙的・統語的な下位類に属しているかによって、あらかじめ原則的に決まるといわれている。

その基準として日本語では他に対する〈働き掛け〉といった語義的特徴を明確に有していなければならない。韓国語においても日本語と同様に考えられるが、もっといろいろな要因が受身文の現われを拘束しているように思われる。これは韓国語の場合、受身文に用いられる動詞が限られており、また、受身形といわれる形が多義的で複雑に現われるからであろう。

5. 両言語の受身文

本稿では、日本語の受身を、基本的に能動文の動作(動詞)が示す動きの直接対象か、相手対象か、所有主対象か、それとも第三者対象かによって四つに分類して考える⁵⁾。

i 直接的な客体(直接対象)の受身文

能動態の動詞が指し示す動きの直接対象(直接的な客体〈～を〉)を主語として表わす文である。このような直接対象の受身文を用例から細分化して説明してみる。

(1) 日: 有情物が——有情物に ——～れる, られる,
から

韓: 有情物 i ——有情物 ega ——〈～i 形〉または他の形
ga egeso

9) ssaumūl ttūdōmalliryōnūn saramdure ewōssayō sonkwajangi
samut gusūlpun mokchōngūro nahante aewōnhaetta. <kkum>

9') 掴み合ったままの二人を引き離そうとする部員たちに囲まれて, 孫課長はいかにも悲痛な声でぼくに哀願した。

10) 女は男に引きずられ, これも遺言を残さなかった。 <点と線>

10') yōjanūn sanaiege kkūlyō i yōksi yusōrūl namgijianatta.

11) 次姉は片田舎の小学校で教頭をしている夫から離れると脅迫されながらも, 悪魔との戦を断念しようとはしなかった。 <高麗>

11') jagūn nunimūn sigolgungminhakyo kyogamin namp'yōne-gešō ihon wihyōpbadūmyōnsōdo, angmawaūi ssaumūl pogihajianatta.

用例9)・9')・10)・10')・11)・11')はいずれも動作と動作主体,そして動作客体の二項の要素が文中に現われていて,動作主体から動作客体へ動作が向いている典型的な例といえる。そして主語=動作客体と補語=動作主体どちらも人間であって動作を行なう者とその動作を受ける者との関係が相当明確な例ともいえそうである。この場合,構文の位置上の問題においても韓・日両言語はうまく一対一に対応しているが,ただ日本語の受身形<-れる,られる>に対して韓国語の9)・10')では<-i形>が,11')では<-batta>が対応している。そして格の対応においては,主語=動作客体では,日本語の<が格>に,韓国語の<i. ga 格>が対応していて,補語=動作主体では,日本語の<に格><から格>に,韓国語の<ege 格><egeso 格>が対応する。ここで韓国語の<ege 格>は会話体においては<hate 格>で使えることもありうるだろう。<egeso 格>は会話体では<hanteso 格>,文章体では<robuto 格>が並行して使用可能である。

(2) 日:非情物が——有情物によって ——れる,られる

韓:非情物 i ——有情物 e ūihayō ——<-i形>または他の形
ga e ūihaesō

12) 鮎はつりてんぐによって捕えられた。

12') ūnōnūn naksimyōngsue ūihayō jap'yōtta.

13) この会館はたくさんの会員らによって立てられた。

13') i hoekwanūn manūn hoewōndure ūihaesō sewōjyōtta.

14) 被告人の死刑が裁判官によって宣告された。

14') p'igoinŭi sahyongi jaepankwane ŭihaesŏ sŏngodoeŏtta.

用例12)・12')・13)・13')・14)・14') の場合、直接対象が人間以外の具体物の場合で、受身構造の動作主体が〈によって〉の形を取っている。日本語と比べて用例は少ないが韓国語も日本語の〈によって〉に相当する形として〈eũhayŏ〉か〈eũihaesŏ〉を取りうる。この場合、受身構造の補語と述語動詞との関係は主体と動作であることがもっとはっきりあらわれるのである。

ここまで述べてきた(1)(2)の構文は Agent が人間の場合であって、動作主体の主体性が強く感じられる受身文であった。これに対して、(3)は動作主体が非情物である場合である。

(3) 日：有情物が——非情物に——～れる、られる

韓：有情物 i —— 非情物 e —— 〈・i 形〉または他の形
ga ro

15) a a ŏnŭtŭmenji nado salsangui yuhoge jogŭmssik ch'imsi-
kdang hago issŏttŏngŏsida. <dot>

15') ああいつしか私も殺傷への誘惑に少しずつ犯されていた。

16) kŭnyŏnŭn ch'ae ch'iŏ jugŏttŏnji kkangp'ae kare chillyŏ ju-
gŏtdŏnji duljunge hanagetchi. <doduk>

16') かの女は車にひかれて死んだか、やくざのナイフに刺されて死んだ
か二つに一つだろう。

この15)・15')・16)・16')は動作主体に人間以外の非情物が現われる構文だが、動作主体がほとんど実際の動作を行なわないもので、動作に及ぼす影響、すなわち原因とか道具を表わしているようにみえる。ここでも日本語の受身形に対応する韓国語の受身形としてはいろんな形態の受身形が現われる。

ここで一つ注意して考えなければならないのは、日本語の動作主体の格が有情物・非情物共に〈に格〉で表現するのに対して韓国語は非情物の場合は〈ege 格〉ではなく〈e 格〉で表現することである。

(4) 日：非情物が——非情物に——～れる，られる

韓：非情物 i ——非情物 e——<-i 形>または他の形
ga

17) 遠い山々は雪が煙ると見えるような柔かい乳色につつまれている。

<雪国>

17') monsandŭrŭn nuni ppuyoke boinŭn budŭroun jaetbiche ssa-
yoissotta.

18) ŏndŏkkiri nune(nunŭro) dŏp'yŏ wiekkaji ollawattŏn myŏ-
ttaeŭi sŭngyongch'adŭri bŭreikŭrŭl balbŭnch'ae asŭlasŭl mi-
kkŭrŏjyŏ naerigo issŏtta.

<高麗>

18') 坂道が雪に(雪で)覆われて，上まで登っても何台もの乗用車がブ
レーキをかけながら危なっかしげに降りて行った。

<高麗>

19) 木がのこぎりでたおされた。

19') namuga tobŭro ssŭrŏjida.

20) やねが台風でふきとばされた。

20') chibungi taepungŭro nallyŏtta.

用例17)・17')・18)・18')は動作主体(補語)として具体物と自然現象を表
わすものがくる例文である。そして19)・19')・20)・20')の例文は(4)の延長
線上で扱⁶⁾うべき例文ではあるが、一種の自動詞構造の文に近づいている感
じがする。格に関しては、日本語の例文17)の場合<雪に>と<雪で>
のどちらを使ってもかまわないと思うが、韓国語においても<nune>と
<nunŭro>の両方が使用可能である。

(1)~(4)のタイプの直接対象の受身文に関して、両言語の用例からいろい
ろな側面から考察してみた。全般的にいうと、直接対象の受身文に関して
は、韓国語の受身文の述語動詞が、多様に現われる特徴が目立ってはいる
が、ほとんど日本語の受身文とうまく対応しているといえるだろう。

ii 相手対象の受身文

述語動詞が指し示す動きの相手(主に<に格>)を主語として表わす。
この時、動作主体は<に・から格>で現われるし、直接対象の<を格>は

そのまま残る。⁷⁾

21) sahyōngŭl badŭn jejarobutō sibonyōnŭi guhyōngŭl badŭn
sarami doere wiroŭi malŭl dŭkko, irŭnba ũnsaranŭn ibjangŭi
..... <kyoul>

21') 死刑の判決を受けた教え子から十五年の求刑を受けた人間がかえっ
て慰めの言葉をかけられ, 言えば恩師という立場の……

22) 私はそれらの手紙の保管を頼まれて, 今でもここに持っているが…
… <陰獣>

22') nanŭn gŭ p'yonjiŭi bogwanŭl butakbatko. jigŭmdo gŭgōsŭl
gakkoitnŭn.

23) 生徒たちは教師の手から一人一人通知簿を渡された。

23') haksængdurŭn sōnsaengnimŭrobotō hansaramssik tongji-
p'yorŭl badatta.

24) 太郎は校長先生から表彰状を贈られた。

24') taronŭn kyojangsonsaengnimŭroboto p'yoch'angjangŭl ba-
datta.

25) 花子は先生に結婚を勧められた。

25') hanakkonŭn sōnsaengnimŭrobotō gyōlhonul gwonyubadatta.

26) 太郎は次郎から花子を紹介された。

26') taronŭn jiroroboto hanakorŭl sogæbadatta.

27) その後, 石田部長から商売上の便宜を与えられました。 <点と線>

27') Kuhu isidabujangŭroboto saobsangŭi p'yonŭiga juōjyōtsŭ-
mnida.

これら相手の受身文に関しては, すべての用例から動作主体に有情物だけが現われることがわかった。用例 22)~25') では, 日本語の受身形に対して韓国語の<batta>という授受動詞が対応している。勿論 26') のように漢語動詞の受身形として<-batta>が対応しているものもある。韓国語の場合, この相手の受身文が特別な場合をのぞいてほとんど授受動詞か自動詞を使って表現されるため, 全体の受身文からいうと, 非常に制限があ

るように思われる。

iii 所有主の受身文

動作対象の所有主を受身文の主語で示し、その所有主の所有物及び部分を<を格>の対象語(補語)で示して作る文を所有主の受身文という。

28) 花子は病気で命を取られました。 <ところ>

28') hanakonŭn byongŭro saengmyŏngŭl ppaeatkkyŏtsŭmnida.

29) 私は彼に手を握られました。

29') nanŭn gŭge sonŭl jap'yŏtsŭmnida. <脈>

30) 三原は背中を何度もこづかれた。

30') miharanŭn dŭngŭl ōdŏmajatta. <点と線>

用例 28)~30') のように所有主の受身文の中でうまく対応している両言語の受身文を表わしてみた。ここでも ii の相手の受身文と同様、韓国語では普通の能動文として表現するのがほとんどといえる。

iv 第三者の受身文

i, ii, iii で述べてきた日本語の受身文の主語は、それぞれ直接対象、相手対象、所有主という形でその行為に参加しているのに対して、第三者の受身文はその行為によって影響を受けた第三者、結局その行為に参加していないものが主語として現われる文である。

そしてこの主語が元の文に表わされる事態によって被害を受けるという体験+動作の主体を表わすのである。

31) 生徒達は雨にふられた。

31') saengdodŭrŭn bigawasŏ honnatta. (生徒達は雨がふったのでこまった。)

32) 太郎は花子に死なれた。

32') taronŭn hanakoga jugŏsŏ sŭlp'ŏtta. (太郎は花子が死んでかなしんだ。)

用例 31)・32) の第三者の受身文は他の言語に見られない日本語の特徴的な表現法だといわれている。韓国語の 31')・32') では受身文ではなくて能動文として表現している。

6. おわりに

本稿で述べてきた内容を簡単に要約すると次のようにまとめられる。

- 両言語共に受身文の主語には有情物（人）がくるのが普通である。
- 受身文の動作主体を欠いている用例が多く、自動詞文的な表現と受身文との境界が明確に区別しにくい表現が言語活動の中にはたくさん使われている。
- 日本語はすべてのあらゆる自・他動詞から受身文が作られるが、韓国語は他動詞に限って、また非生産的に受身文が作られる。結局、日本語で受身表現を使う所に、韓国語では能動表現を使う傾向があるといえる。
（細かい分析はできなかったが、今回調査した1167例の構文からいうと、日本語の受身文が韓国語では能動文で翻訳されたり、韓国語の能動文が日本語に翻訳される時に受身文になる例が316例あった。）
- 日本語では相手の受身文の代わりに、能動の構文として単なる授受動詞で表現されることがある（三項動詞〈～が～に（から）～を〉の場合はほとんどこの構文になる）。これに対して韓国語の相手の受身文には二項動詞はほとんど現われないし、三項動詞の場合は受身文ではなく授受動詞でその役割を果たしている（漢語動詞の場合、三項動詞でまれに受身文になることもありうる）。

注

- 1) 文学作品は、韓国語で翻訳されている日本の小説と日本語で翻訳されている韓国の小説から用例を取った。
- 2) 形態論的な対立としては形態論のレベルでの文法的な対立を考える。鈴木重幸（1983）「形態論的なカテゴリーについて」を参照すること。
- 3) 〈-i 形〉は語幹尾の音声によって様々な形になりうるが、その規則性は明らかでない。例えば、語幹尾が〈t〉でおわる動詞の〈-i 形〉は単語によって接尾辞〈-hi〉〈-gi〉のいずれかを取る。
- 4) 人によって判定が異なると思われる。特に〈～batta〉と〈～danghada〉の使いわけによって受身的な意味が異なってくると予想される。
- 5) 直接対象の受身・相手対象の受身・所有主の受身・第三者の受身と四つに分ける際には、受身構文の主語にどんなものが来るのかを基準にした。

- 6) 両言語共に Agent があまり現われない構文でその Agent が手段・道具・原因などを内面的な意味（ニュアンス）として含んでいる。
- 7) 「一が一を一に(から)一」を取る三項動詞は学術文献などにたくさん現われる。特にこの構文の考察には使役構文との関係を考える必要がある。

参考文献

- 奥田靖雄 1981「言語の体系性(4)」『教育国語』66
- 久野 暉 1986「受身文の意味—黒田説の再批判—」『日本語学』2月号
- 言語学研究会 1983『日本語文法・連語論(資料編)』(むぎ書房)
- 鈴木重幸 1972『日本語文法・形態論』(むぎ書房)
- 1980「動詞のたちばをめぐる」『教育国語』60
- 1983「形態論的なカテゴリーについて」『教育国語』72
- 高橋太郎 1985「現代日本語のヴォイスについて」『日本語学』4月号
- 寺村秀夫 1978『日本語の文法(1)』(大蔵省印刷局)
- 1982『日本語のシンタクスと意味・第一巻』(くろしお出版)
- 仁田義雄 1980『語彙論的統語論』(明治書院)
- 村上三寿 1986「うけみ構造の文」『ことばの科学(1)』(むぎ書房)
- Kim ch'a gyun 1980「国語の使役と受動の意味」『ハングル』168
- Nam kwang u 1981「使動・被動形の歴史的考察」『仁荷大学校論文集』
- Yi mun ja 1979「朝鮮語の受身と日本語の受身—もちぬしの受身を中心に—」
『朝鮮学報』・91
- Yi gil won 1987「現代日本語のヴォイス—韓国語との対照研究—」横浜国立大学修士論文

用例を引用した資料

- 作品名：日本の小説『点と線』『ころろ』『雪国』『陰獣』
韓国の小説『高麗葬』『脈』『単独』『kkum』『kyŏulbam』『dŏt』
『doduk』

(東亜大学校日語日文学科専任講師)